思案橋 銅座

shianbashi

dōza

長崎の夜は

路地MAP

まちぶらプロジェクト
2022年３月発行

まちあるきガイド

⑥もやい通り

⑦銅座川

⑧銅座の洋館（セ・ルバン）

⑨銅座通りのレトロな看板

⑩銅座稲荷（ビルの屋上）

まちあるきガイド

①思案橋の碑

②思案橋入口

③見返り柳と思切橋欄干跡

④江戸時代の塗り塀

⑤船大工町大師堂

思案橋・銅座界隈の楽しみ方

長崎は魚のまち、どこよりも新鮮な魚を堪能できます！

長崎の漁獲高は日本有数です。しかも魚種の豊富さでは日本一といわれています。腕のいい料理人さんも多く、活き造りなどで豪快に旬の魚を食べることができます。居酒屋や寿司屋、小料理店も良心的な価格で楽しめると、観光客にも好評です。

長崎の魚は種類も豊富！

レトロな雰囲気もたっぷり

思案橋があったところには
欄干のモニュメントが
（思案橋電停すぐ）

歴史あふれる長崎の夜の町　思案橋・銅座界隈は、路地裏の小さな通りも魅力です。

思案橋横丁

思案橋入口から入ってすぐ右に曲がる通り。メインストリートの次に賑やかな通りで、おいしい店も多いので、グルメ通りとも言われています。

一口餃子や一口ぶたまんなど、人気のB級グルメも

遅くまで営業している中華料理のお店があるのもうれしい。また、おじや、牛かん、高級魚「おこぜ」が味わえる店も！

田中屋酒店ビルの横の細い通り。左手が駐輪場、煉瓦の壁の突き当たりを右に曲がると柳小路通りに出ます

やっぱり長崎に来たら皿うどん

居酒屋「川正」の横の細い通り。ピンクのネオンがいかにも夜のまちの雰囲気です。柳小路通りへの抜け道として使えます

銅座町通り

観光通り電停から徒歩すぐ。誘われるように入って行くと、地元で評判の居酒屋や寿司屋、老舗のラーメン屋さんなどが並びます。ビルの上の神社「銅座稲荷」も近くです。

遠くからわざわざ足を運ぶ人も多い長崎産の「あら」や「ふぐ」もぜひ味わって！

銅座町のくんちの演し物「南蛮船」のオブジェが掲げられた銅座町通りの門

長崎は鯨がおいしいことでも有名。「鯨あります」の暖簾がかかっているお店でどうぞ！

柳小路通り

見返り柳から入って、思案橋横丁に続く通りは、長崎のディープゾーンともいわれ、古い暖簾の店から今話題の店まで、地元っ子御用達の人気店があります。

お寿司屋さんなどでも“かぶり”は人気

「これ、かぶりにして！」

江戸時代、出島に招待された長崎の人は、珍しいオランダ料理を包んで持ち帰って、家族に食べさせたといわれています。今も長崎では、宴会などで残った料理を持ち帰る習慣があり、そのことを長崎では「かぶり」と言います。お持ち帰り用に買って帰るときも「かぶりで…」と注文します。

女性の一人旅でも安心して楽しめるワインバーや、老舗のおでん屋さんで飲む美味しい日本酒はいかが？

銅座を歩くと、店の玄関先で見られる「盛り塩」。商売繁盛の縁起ものだ。

長い伝統と歴史に包まれた銅座には、いろんな風習が残っています。その中の一つが「盛り塩」。今では全国的に見られる盛り塩ですが、元々中国の故事に由来する縁起を担ぐ風習。中国文化が最初に伝わった長崎から始まったとも考えられます。

●本パンフレットについてのお問い合わせは、長崎市まちなか事業推進室 tel095-829-1178

思案橋・銅座 歴史をひもとく

shianbashi doza

日本中にその名が知られる「思案橋」
また、その周辺の歓楽街「銅座」は
長崎の夜のまちの代名詞。
あらためてその歴史を知ると、
いつものネオンがさらに輝いてみえるかも。

歓楽街「銅座」の入口にある
思案橋の記念碑

長崎では、思案橋付近から本石灰町、船大工町、籠町あたりも含めた長崎の夜の繁華街を「銅座」と呼んでいます。

町名の由来に見るヒストリー

本石灰町 もとしっくいまち

昔はこの地域まで海岸線が入り込んでいて、船着場では隣の油屋町で油精製のために使用される「石灰」が多く荷揚げされていました。石灰はマカオ周辺から御朱印船が運んできたため、貿易商人もたくさん住んでいたそうです。

船大工町 ふなだいくまち

この町も昔は海に面していました。船の修理場などがあり、船造りにかかわる船大工さんが多く住んでいたので、この名が付きました。寛永時代には「新船大工町」と称していましたが、正保の頃、船大工と改められました。

籠　町 かごまち

中国貿易の梱包に使う竹籠を造る（籠細工）職人が多く住んでいた地区です。江戸時代に造られた唐人屋敷のすぐ隣町で、寛政年間（1790年頃）、唐人屋敷の中国の人たちに指導を受け、初めてくんちで龍踊りを奉納しました。このときの楽器や衣装は、唐人屋敷の人たちが本国より取り寄せてくれました。

銅　座　町 どうざまち

「銅座」とは、江戸中期以降、各地で産出された銅の精錬とその専売を行った役所のことで、長崎では1725年に設けられ、銅座銭（鉄銭寛永通宝）の鋳造を行っていたそうです。銅座はわずか13年で廃止され、それ以降は「銅座跡」と称されていました。現在、町の西端にあたる新地中華街電停のあたりは、俵物役所や対馬藩蔵屋敷があった場所。俵物役所は、1745年に設立され、主に中国へ輸出された俵物（煎海鼠、鱶鰭（ふかひれ）、干鮑）を収集、加工した役所。近くには出島や新地蔵などもあり、この地区が昔から長崎の人と物の交流拠点であったことがうかがえます。

江戸時代から残る通りを歩く

❶銅座跡
❷本石灰町
❸船大工町
❹籠町
❺唐人屋敷
❻新地蔵
❼出島
❽丸山

享和2（1802）年の長崎図（長崎歴史文化博物館蔵）
唐人屋敷や新地、出島にも近く、山手には花街・丸山を抱えていた。
物と人が交流する中で町が栄えていった

一見、思案橋・銅座界隈には昔のものは残っていないように見えますが、よく見てみると、江戸時代から残る風情ある塗り塀があったり、1725年（享保10）、築地銅座が完成した際に架けられたと思われる石橋「新道橋」が今もひっそり残っていたりする、歴史のロマンあふれるエリアです。

船大工町大師堂

また、船大工町や籠町から山手に上る細い坂道も昔ながらの面影を残しています。思わず手をあわせたくなるお堂やお地蔵さん、のんびりと歩く尾曲がりネコなどに出会うと、心がほっこり温かくなります。

西濱町築地と築地銅座を結ぶ橋として架けられたと考えられる「新道橋」。現在の橋は石橋で1916年（大正5）に架けられたものです。

花街の入口、「いこか、もどろか」思案した思案橋

1642年（寛永19）に始まった長崎丸山は、日本三大花街のひとつに数えられるほど栄え、日本国内はもちろん、世界各国にその名を轟かせていました。

思案橋は、その花街丸山の入口にあり、「丸山で遊ぼうか、どうしようか」と迷いながら思案橋を渡り、思切橋で決心して丸山の遊女のもとへ。そして帰りは、思切橋の上で遊女への未練を断ち切りながらも、見返り柳の下で丸山を振り返りながら家に戻ったという、語り伝えのある場所です。

「長崎名勝図絵」より（長崎歴史文化博物館蔵）

見返り柳

思切橋の欄干

花街はなくなりましたが、今でも丸山への登り口、通称“山の口”の三叉路には「見返り柳」があり、その根元に「思切橋」の欄干が残されています。

見返り柳の横から入る細い通りは「柳小路通り」と呼ばれています。

～明治／大正時代～

イネの住居兼診療所があった…

銅座橋の通りの一角に、シーボルトの日本人妻・楠本タキと娘イネの住居がありました。もともとタキの実家（コンニャク屋）だった場所です。その後、イネは日本人女性で初めて産科医として西洋医学を学び、東京で開業したあと、長崎に戻り、この地に開業しています。

日本初の女医 楠本イネ（大洲市立博物館蔵）

芝居小屋がいっぱい

現在の銅座周辺には、芝居小屋が点在していました。昔の人は芝居小屋のことを「シバヤ」と言っていたとか。それで、芝居小屋がたくさんあったあたりを「シバヤンジ」と呼んでいたそうです。

多くの文化人と交流した「銅座の殿様」

永見家は貿易商、諸藩への大名貸し、大地主として巨万の富を築き、くんちの諸経費も一手に引き受ける「銅座の殿様」でした。その永見家の6代にあたる徳太郎は1890年（明治23）生まれ。若い頃から写真や絵画に親しみ、数々の作品を世に出した文化人。竹久夢二や芥川龍之介、菊池寛など数多くの文人墨客と交流を持ち、彼らが長崎を訪れた際には必ず永見家を訪問していたといわれています。

銅座のパワースポット!?

銅座のビルの屋上にある稲荷神社。この神社にお参りすると、御利益があると伝えられています。というのは、明治の初め頃、銅座町付近に大火があったとき、お稲荷さんが表れて白い御幣を振ったため延焼を免がれたとか。また、日露戦争のとき銅座町の軍人さんを守ったという言い伝えも残っています。ビルの下からお参りするだけでもご利益ありかも!?

～なつかしの昭和時代～

キャバレー全盛時代のきらめく思案橋・銅座
歌のヒットもあり、長崎の夜の魅力は日本中に知れ渡った

「長崎は今日も雨だった」のクールファイブは長崎からデビューした

戦後、造船業などで栄えた長崎。社交の場であった銅座も大いに賑わいました。当時は全国的にキャバレーが全盛の時代で、長崎にも多くの名店が生まれました。その中でも人気を集めた店が「銀馬車」。「長崎は今日も雨だった」が大ヒットした「内山田洋とクール・ファイブ」は、元々「銀馬車」の専属バンドでした。ボーカルの前川清さんは、長崎ゆかりの人物として今も長崎の人に親しまれています。

「長崎」のイメージを印象づけた主な歌謡曲

♪思案橋ブルース
♪長崎の女（ひと）
♪長崎物語
♪長崎は今日も雨だった
♪長崎の夜はむらさき
♪長崎から船に乗って

“銅座で飲む”

**長崎で大人になる第一歩だった
あこがれの夜のまちだったのです**

そして今も、これからも

長崎一の歓楽街といえば“思案橋・銅座”。
誰でも気軽においしく楽しく飲める、
憩いの場でありやすらぎの場。
癒しを求めて銅座に通う人も多い、
江戸時代からの華やぎを秘めたまち
“やっぱ長崎の夜は銅座”ばい！

思案橋の電停を降りたら、長崎ゆかりの人物が並ぶユニークなアーチ型の門が迎えてくれます。車も通れるメインストリートから脇道にそれた細い路地裏まで、おいしく楽しい店が揃っています。女性同士でも安心して歩ける健全な歓楽街です。

カクテルのおいしいバー

腕のいいバーテンダーも多い長崎。気になる店のドアを気軽に開けてみましょう。きっと笑顔で迎えてくれるはず！

長崎カクテル“Nagasaki”

おしゃれなイタリアンも

和食や中華ばかりじゃありません。昔から海外と交流していた長崎は洋食も◎です！

長崎グルメを味わう場、思案橋・銅座

旬の魚

長崎は日本有数の魚のまち。魚の種類も多く、新鮮さが自慢です。

長崎和牛

和牛のオリンピックといわれる大会で日本一に輝いた長崎和牛をぜひ！

鯨

長崎県は昔から鯨の宝庫。今では高級品となった鯨も長崎では気軽にいただけます。

長崎サラダ
皿うどんのパリパリ麺を生野菜とドレッシングで！

あら炊き

豚の角煮

長崎おでん

居酒屋で気軽に！長崎ならではの一品！

おいしいお酒と！

ひとくちコラム｜長崎の料理は甘口

鎖国時代、国際貿易で栄えた長崎は、その利益の一部を「かまど銀」として領民みんなに分け与えていました。そのためほかのまちよりも裕福で、豊かな食文化も生まれ、思案橋・銅座のような魅力ある歓楽街も生まれたのでしょう。また、砂糖が出島から入ってきたため、長崎はいち早く砂糖も豊富でした。少し甘めの料理や醤油は、その歴史の名残りです。